



幼児期を生涯にわたる人格形成の基礎を培う時期，すなわち「学ぶ土台づくり」の時期として捉え，家庭や幼稚園・保育所・認定こども園などのいずれにおいても充実した幼児教育が行われ，小学校へ入学する時期までに，子供たちが豊かな心情や学ぼうとする意欲，健全な生活を送る態度などを身に付けることを目指す。

「学ぶ土台づくり」の取組とは

宮城県では、幼児期を生涯にわたる人格形成の基礎を培う時期、すなわち「学ぶ土台づくり」の時期として捉え、家庭や幼稚園・保育所・認定こども園などのいずれにおいても充実した幼児教育が行われ、小学校へ入学する時期までに、子供たちが豊かな心情や学ぼうとする意欲、健全な生活を送る態度などを身に付けることを目指して取り組んでいます。

この「学ぶ土台づくり」を宮城県民総がかりで推進するため、平成23年3月から、幼児教育に関係する各主体（家庭・地域社会・教育現場・行政）がそれぞれの役割を果たしながら共に取り組むための「幼児教育推進の指針」として「学ぶ土台づくり」推進計画を策定し、その必要性と重要性を普及啓発してきました。

「普及啓発」から「実践促進」へ

「学ぶ土台づくり」推進計画に基づく普及啓発により、「学ぶ土台づくり」に対する理解は着実に広がり、重要で普遍の理念として定着してきていますが、子供たちの健やかな成長のためには、幼児教育に関係する全ての主体（家庭・地域社会・教育現場・行政）が、「学ぶ土台づくり」を理解することに加え、「実際に行動すること」が必要です。

さらに、幼児期は生涯にわたる人格形成の基礎を培う時期であるため、「学ぶ土台づくり」は、小学校に入学した後の生活や学習につながっていくものです。そのため、家庭における幼児教育の実践とともに、教育現場においても、幼児教育と小学校教育の円滑な接続など、幼児教育の内容面の質の向上に積極的に取り組んでいくことが求められます。

「志教育」につながる 普遍の理念として

小学校に入学した後の生活へのつながりや就学前から高等学校までの学びの連続性の観点から、「学ぶ土台づくり」は、宮城県の小学校以降の学校教育の共通理念である「志教育」につながるものと位置付けることができます。また、「学ぶ土台づくり」の考え方は、変わることはない重要で普遍の理念であることから、この際、「学ぶ土台づくり」を「志教育につながる普遍的な就学前の幼児期の教育・保育の理念」とすることとし、新たに「宮城県幼児教育推進指針みやぎの学ぶ土台づくり」を策定しました。

これまで「学ぶ土台づくり」推進計画により示してきた基本的な考え方を継承しつつ、家庭・地域社会・教育現場・行政における実践的なガイドブックとして活用してもらえそうなものとしています。

宮城県の将来を担う子供たちを みんなではぐくみましょう

この指針は、宮城県に住む小学校就学前の全ての子供（乳幼児）を対象としています。その子供たちは、みんなそれぞれ周りの環境と関わり合いながら育ちます。全ての子供たちが健やかに成長していくための環境づくりがとても大切です。そして、もちろん「子供たちに関わる大人自身」も子供たちにとっては環境のひとつです。このことも意識しながら、大人たちが一人一人の子供のために行動していくことが必要です。

宮城県の将来を担う全ての子供たちをみんなではぐくむため、この指針を活用して、それぞれの立場に応じて、できることから少しずつでよいので実践してみてください。